



JET プログラム事業部で活躍する PC たち② ～JET 経験者がクレアでも活躍中～

JET プログラム事業部 調整課

クレアでは、多くの JET 経験者が PC (Programme Coordinator) として、業務にあたっています。10 月号に続いて、JET プログラム事業部で、現役の JET プログラム参加者が充実した環境で働くことができるように、研修の運営や関係機関との連絡調整などに日々奮闘している 4 名の PC に JET プログラム参加時の思い出や現在の業務などについてインタビューしました。

プロフィール



Toby Birkbeck-Jones
(トビー・バークベックジョーンズ)
元 CIR (福島県) 2017～2020
出身国：ニュージーランド

Q: JET プログラム参加時に印象に残っていることは?

福島県の国際課に国際交流員 (CIR) として勤めていた間にさまざまな印象的な出来事がありましたが、最も印象に残っているのは、「福島県浜通りのかたりべ」の通訳でした。毎年 10 数名の県人会の青年 (北・中南米出身) を福島県へ招へいし、福島県の理解や先祖との繋がりを深めるためのツアーを実施していました。

そのツアーの中で、東日本大震災・津波、原発事故で被害を受けた浜通りにも訪れました。そこで、一瞬にして日常生活を津波で奪われた、かたりべの話を参加者へ通訳しました。

身も世もない話で途中から参加者も私も泣きながらお話を聞いていました。



ウルトラマンとばしゃり
@福島県安達太良 SA

非常に悲しかったですが、参加者がよくわかるように通訳できたことはなんともありがたい経験でした。

Q: 現在の業務内容は?

私の担当している業務は主に 2 種類あります。JET プログラム参

加者向けの研修と出版物の更新です。

JET プログラム参加者であった当時、よく JET プログラム参加者用のハンドブックや CIR ハンドブックを参考にしていたので、そのハンドブックの出版に貢献できることは光栄に感じています。

研修の面では、PA (取りまとめ団体アドバイザー) 研修や CIR・SEA のオリエンテーションや中間研修、終了前研修などの業務にも携わりました。特にコロナ禍の中、JET プログラム参加者がオンラインツールを通して交流できる場を設けることの重要性を実感しました。

Q: 今後の目標は?

CIR やクレアでの経験を通して、草の根レベルの国際化や人的な交流の大切さなどに感動しました。

クレアを卒業したら、さらに国際交流に貢献できるように母国のニュージーランドの外交団に入り、今までの経験を活かしながら、ニュージーランドと日本、そして他国間の絆や総理解を深めたいと思っています。

プロフィール



Simon Essler
(ズィモン・エスラー)

元 CIR (福島県) : 2018～2021
出身国：ドイツ

Q: JET プログラム参加時に印象に残っていることは?

福島県庁で CIR として仕事をしていた 3 年間の中で 1 番印象に残っているのは、連携覚書を更新するために内堀知事と 1 週間ほどヨーロッパに出張したことです。



加藤 内堀 敬雄

準備が大変だった分、達成感も大きく、とても貴重な経験になりました。

Q: 現在の業務内容は?

クレアでは主に JETAA (JET プログラ



ム参加者の会)の支援事業を担当しています。世界中の多くの国でJET経験者がボランティアとして設立したJETAA支部の活動を支援しています。仕事で国内外のさまざまな方々と触れ合うことができ、楽しいです。

Q: 今後の目標は?

今の仕事では、日本における多文化に対する理解を深めることに少しでも貢献したいと思っています。

プライベートでは日本百名山の制覇を目指していますが、完全制覇にはあと10年ばかりそうです…。ちなみに、おすすめの山は福島県にある磐梯山(ばんだいざん)です。

プロフィール



Cael Dant

(カエル・ダント)

元 CIR (栃木県): 2017~2020

出身国: アメリカ

Q: JETプログラム参加時に印象に残っていることは?

栃木県は私の故郷のインディアナ州と姉妹関係を結んでおり、CIRとして勤め始めてわずか2カ月後、州知事を含める団体が来県しました。初めての経験で、精一杯、両知事の表敬通訳に取り組みましたが、やはり大変でした。そこから2年後、姉妹連携20周年記念イベントに再び州団体が来県した際には、私は2年前の自分とまるで別人のようにスムーズに両知事の会議通訳ができました。自分自身の成長を実感できた大切な経験です。

Q: 現在の業務内容は?

調整課メンバーとして、日本の省庁や在外公館とやり取りをしながら、新規JET参加者のあっせんや来日調整のサポートやプログラム運営に関する翻訳通訳や現役CIR向けの研修業務などが主な業務です。

Q: 今後の目標は?

大学で日本語とともに生物学を勉強し、JET参加前は、植物研究室で勤めていました。栃木県では、翻訳・通訳を通して、博物館やいちご研究所と協力したり、母国の生態系について県民向け講座を行ったり、日光の山々特



男山(栃木県)での冬登山に挑戦

有の食虫植物を視察するために登山に行ったりしました。その中で、科学と言語や社会とのつながりの大切さに初めて気づき、自分が勉強していた

分野が、新たな視点から見えるようになってきました。将来、世界のどこにいても、日本語能力と日本との絆を生かしながら植物学や環境保全とその社会的な認識に貢献したいと思います。

プロフィール



Peter Collins

(ピーター・コリンズ)

元 CIR (岐阜県): 2016~2021

出身国: イギリス

Q: JETプログラム参加時に印象に残っていることは?

長良川の鶺鴒いや地歌舞伎について学んだり、在京大使団が岐阜に訪問した際やオリンピック事前合宿の事前視察に来た英国選手団に通訳を行ったりしました。また、ロンドンで行われた事前合宿に関する合意書締結を手伝うこともできました。それら全てが印象に残っています。

そのほかにもイギリスから家族が来日した際に、郡上市の徹夜踊りに参加しましたが、それは一生忘れない思い出となりました。仕事でもプライベートでも、日本人と交流することはもとより、ほかのJET参加者や外国人住民と知り合えて、さまざまな文化の違いについて学べたことは、とてもいい経験となりました。

Q: 現在の業務内容は?

研修・カウンセリング課に所属し、現役JET参加者向けの研修や情報発信を主に行っています。今年の新規PA(取りまとめ団体アドバイザー)向け研修を担当することになりましたが、PA業務は、自分にとって1番苦労したことの1つなので、少しでも役に立てれば嬉しいと思っています。そのほかにもJET参加者に提供している日本語講座と、CLAIRニュースという毎月JET参加者向けに発行するメルマガを担当しています。

Q: 今後の目標は?

まずは担当業務にしっかり取り組みながら、先輩PCから知恵をたくさん得ることで。そして、JET参加者の意見を踏まえて、より良いサポートができたらいいなと思います。クリアでの仕事を通じて、日本語能力を高めつつ、経験を積んで、将来、帰国しても日本と関係のある仕事学校でイギリスの紹介ができたらと思っています。

